

E 2157

Evidentiary Da. # P 2963

寫本 一九四七年一月廿東京於佛蘭西副檢察官ミトオト氏面於於感

供述書

私ハガブリラグズレン G A B R I L L A G U E S / ト言 聖手一九四八年一月一日至

レ文科大學入學資格者ニ法學士 佛蘭西陸軍士官ニ印友支那戦犯局

代表アリマス 西貢 ムイ一路八一番ニ住テ居リマス

我犯容疑者調査ヲ務所ノ委任ヲ受ケ私職務実行ヨリ綜合的證據ヲ

調べ之證據ヨリ日本軍ニ依テ印友支那ニ於テ我犯ノ智識ヲ得

ルコトガキマシタ 之等犯罪非テ多數アリ之等ニ因テ證據ハ大部

ナモノデアリマスカラ之ニ付キ完全ナ一陸軍ヲムルコトハ困難ニテアリセウ

更ニ或レモハ證人ニ至イコト反聯合國軍ニ陸ヲ豫見ニ日本人ヨリ行ハレテ

被害ノ文書ノ組織的破壊ヨリ今日モ亦將來モ知ラセテ殘ルデシヤウ

私ハ自由及個人的尊嚴 掠奪 竊盜 各種ノ虐待及殺人ヲモ別トナシ顯

著ナラシメテ實ナルモノノミヲ述ベマセウ

私ハ特ニ次ヲ指摘シタリマス

一 憲兵隊署内及俘虜收容所ニ於テ犯サレテ殘虐行爲

ニ 俘虜及一般民間人ノ殺戮

印友支那ニ於ケル日本司令部が佛蘭西民衆ヲ諸都市聯合國軍

空襲ヲ屢々最モ受ケ容イ個所ニ集中スルニ 憲兵隊ハ殘虐サリ

以テ有名デアリ 數百人ノ佛蘭西人ハ牢ニ入ラレ普通法ヨリ監禁人

110.1

印友被テ傷ムルハ衛生條件トニ團マレ衣服ナク 医薬ノ守

當ナク、水ナク、時ニ數週向食物ヲ断タレ、最モ屢々嫌疑スベキ不潔ナ  
 條件下ニ過分ニ塩辛キ小サイニキリ飯一個が全部テシカケシク受ケテカク  
 訊問ノ名ヲ藉リテ、最モ多數ヲ拷問ガ組織的ニ加ヘラレタ即チ傷害及  
 骨折ヲ来タス棍棒ヨリ殴打、燈火シタ燐寸ヲ爪ノ下ヘ差シ込ムコト、卷  
 煙草及燃エテ居ル布切レヲ頭巾トシテ火傷ヲ負ハセルコト、角ノ鋭イ  
 木材ヨリ加刑、水責メ、電氣責メ、親指ヲ吊リ下ケルコト等々デアツタ  
 コレラノ生活條件ト拷問ガ多數ノ拘禁者ヲ死ニ到ラシメタノデアリマス、  
 ソレハ致命的ナ拷問ヲ受ケタカ、或ハ虐待ト病氣ノタメ精根盡キ果  
 テ獄ニ居ル向ニ絶命シタカイツレカデアリマス、憲兵隊ガ猛威ヲ振  
 ツテ居タ河内/HANDŌ 海防/HAIPOHONG ケン/VINH  
 順化/HUE 西貢/SAIGON ポンベン/PNOM PENH 等凡ユル  
 処テ凡ユル境遇ノフランス人數百名ガ各連合國市民若ク名ト  
 同様侮辱的ナ待遇ヲ受ケ、ソノ結果死ニヨル以外ニ救ハレル道ガナク  
 ツタ人が多クツタノデアリマス、確定的ナ死カラ日本ノ敗戦ニヨツテ逃  
 カレルコトノ出来タ人々モ骨ト皮バカリノ状態ニナリ、徹底的ニ健  
 康ヲ傷<sup>ソコ</sup>ナツテ憲兵隊ノ獄舎ヲ出テ来タノデアリマス、記  
 録ヲ檢討スレバ印度支那テ、憲兵隊ノ各地方支部ニ於テ行ハ  
 レテ居タ方法ノ同一ナルコトが明カトナリマス、  
 俘虜收容所ニ於テ行ハレタ殘虐行為ハ、憲兵隊テ常習  
 的トナツテ居ツタソレニ勝ルトモ劣ラヌモノデアリマス、將校モ兵  
 卒モソコテハ徒刑囚ノヤウニ防禦工事ノタメ強制的ニ働カ  
 セラレタ、急速ニソノ數ヲ増シタ(以下次頁)

病人は毛労働を強ヒラレ、極々苦痛に過ス。此等モ根柢を破リテ以テ、  
 殴打サレシガ、傷處ハ殆ト食物を食ハサレ、医者ノ手當ヲテ放棄サレ、  
 彼等自ラガ不完全な手段ニヨリ、非常ニ苦痛ヲ以テ建テクバツクノ中ニ  
 動物ノヨウニ閉カケラレ、非常ニ苦痛ノ外ニ他ニ勞働ニ従ハセラレタメ死ス  
 モノガ非常ニ多ク、例ヘバトシマンノ和平自ラABNHノ收容所  
 テハ五ノ期官ニ九十八名デアリマシタ。  
 又殊ニ印支支那ノ多ク、地方テハ日中戦争後傷者ヲ虐殺シマシタ。  
 諒山ノANGSONノデハ、ブリエールノDRIEEREDONノSMEノ堡  
 壘ノ六十人ノ防衛隊員ガ戦鬪直後、銃殺テ、銃剣テテラ刺  
 サレマシタ。

同ジク諒山ノANGSONノ城内ノTADENLノデハ佛蘭西人  
 傷者三百名以上ガ殺殺サレマシタ。処刑ハ連續的ニ五十名ツワ  
 フ東ニシテ、刑執行人ハ軍刀銃劍、鋸、鋸、鋸ヲ用ヒテ、処刑  
 フヤハ、録音者違ニ対シテハ、飽々マデ執拗テマツタ。ニヨリ東ノ時ニハ  
 毛ヲ剃シテ、<sup>對面</sup>ハ血ノ流レル大地ヲ踏ミテ居タ。  
 諒山ノANGSONノ市内ノ他ノ各地ニ於テモ傷者、民衆人ノ虐殺ガ  
 多シマシタ。犠牲者ノ中ニ、ルニEMONNERノ將軍、ロベール  
 ノBERTノ大佐、州理ヲ官ニ居リマシタ。マタオレテ、<sup>殺</sup>殺者ノ  
 一人ノ赤ン坊ノ如キ、テ、吾等、蹟的ニ殺殺ヲ見レタ世親ノ腕ニソ、打碎  
 カレタ頭蓋骨ヲ抱カレテ居リマシタ。  
 同書ノ内ニANGSONノデハ三日間ノ戦鬪後、守備隊ハ降服シ  
 ソノ男、戦(以下次頁)

Doc 2963

ニ就テ日本軍將校連オラ愛詞ヲ垂テマシタ。ソレヲラ間モナラ、兵備隊長ノ大尉カソノ部下ノ眼前テ虐殺セシメタ。猶イテ他ノ守備隊員ハ殊ラズ軍刀ト銃剣テ処刑サレトシカモ同登ノ DOMG, DANGノ改組人全部トイフ吹着テシタ。テ虐殺ノ唯一生録者ヲ見上草兵クロンノ CRONノ大尉トソノ部下ノ子ヲ死刑ヲ犯述シテ居リマス。

定立ノ DINH, LAPノテハ生キ残リタ佛共南西人全部ノ安南人射撃兵ト同格ニ殺戮サシタ。先安ノ TEIN, YENノ河橋ノ HACOYノ潭河ノ DAM, HAノテモ同格ノ虐殺ヲ行ハアツタ。特ニソノ最後ノ哨所ノ <sup>四譯者ヲ</sup> 塔スノテハ安南人傷兵四名ヲ吹置巴人一名トカ生キ残ラ火照リニ處セラシメテ擡言ハ報シテシ。亦記ノ殺戮ハ、シツメノ獲目ノ大佐指揮ノ第三十七師團ニ立取隊ノ休業テアリマシタ。

同師團ニ属スルニニ六取隊モ一乾中ノ シン、マンノ XIN, HANノ、黃竹飛ノ H. ANG, S. PHILノ及ビ河江ノ HAGIANGノノ殺戮ヲソノ業蹟トシテ教ヘラシテヤルガ、コノテハ佛人俘虜陷る處ガ虐殺サレシマシタ。亦記ノ各地テハ佛共南西人女子ニ就スル者厚ク行カモ若干行ハレマシタ。アル婦人ト十四不ニテルソノ姪トハ強制的ニ數週間約五十名ノ日本兵ト雜居カセラレ、ソノ虐待ト暴行ヲ受ケマシタ。ソノ一人ハ奔狂シマシタ。他女達ハ二人トモソノ後處刑サレマシタ。マタ別ノ劄テハ(以下次頁)

No. 4

Doc 2903

フランスデ十五オニナルヲ女トソノ母親ガ強姦サシテ殺害サレタ  
トイフ例モアリマス。更ニマタ数地方ヲハ原住民婦女子ハ賣淫  
行為ヲ強制サレタ。日本軍他ノ部隊、第二師團ノ地区  
ヲモ佛蘭西人俘虜ノ殺戮ハ頻繁テアツタ。特ニ河内HA  
NOR地方ヲ去ツテ支那ヘ向フコトヲ企テ、遂ニ甚大ナル損害  
ノ代價ニ於テ成功シタ。アレクサンドリ將軍/ALESSAND  
Rノ諸部隊ノ後尾ヘノ追撃戦闘ノ最中ニコレが行ハレタ。  
松/TONGノ俘虜、佛蘭西人五名、安南人射撃兵十二  
名ガ處刑サレタ。新貴/TANQUIデハ佛蘭西人俘  
虜十四名軍刀ト銃劔ヲ殺サレタ。唯一ノ生残者ヲアル  
ジュバン/JUBIN伍長ガコノ殺戮ヲ敘述シテ居マス。  
俘虜ガ死刑ハ安拜/YEN, BAY, 信田壽/PHTO, 山羅/SO  
NLA, 素珠/LAICHAU, マリタオ/MALITAO, 等等ヲモ行ハレマ  
シタ。最後ニ老樹地方ヲハコレモ同ジク第二師團占領下  
ノタケウク/TAKHEKノ町ヲハ歐洲人住民ノ男ハ殆ド全部處  
殺サレタ。斯ウシテ五十五名ノ佛蘭西人ガ處刑サレタ  
ノアリマス。

犠牲者ノ中ニ司教ガ二名、州理事官、婦人二名、  
子供一人含マシテ居リマス。

No. 5  
目下西貢ニ拘禁中ノ第三十七師團參謀長恒吉  
大佐ハ戦犯調査官ノ面前ニ於ケル訊問中、第三十七  
師團長長野中將ガ鎮目大佐ノ部隊ニ對シ  
諒山ノ戦闘及ビ虐殺ノ終了後、廣詞ヲ與ヘ  
タト言明シ、且ツ中將ハコノ虐殺ヲハ

No. 6

Doc 2963

戦争行爲ト見做シテキルモノ如クデアルト言フ  
夕止ヲ私ハ附言シテケルバナラナイ。

且ツマタ、恒吉大佐ハ印度支那派遣日本軍  
司令官土橋中將が諒山、停戦後、報告  
ヲ受ケタトヤ、コノコトハ予が知らナイ。居タマウニシ  
テ置テ、ト云ツタトソノ言葉ヲソノ儘指摘シテ居  
リマス。

私ハ此ノ宣言が偽リナキコトヲ誓約ノ下ニ確認  
イタシマス。

印度支那連合戦犯局委員

大尉 エラ、ガブリラック / 署名

一九四一年一月廿日(火曜日)、東京ニテ

口供書受領

佛蘭西檢察官

ロベール・オネト

No. 7

EVIDENTIARY DOCUMENT 2963

証 明 書

添附概略地圖、日本軍ヨル占領  
時ニ般民間人及俘虜ニ対シ行ハレ  
タ殺人及残虐行為ガ行ハルニ印度  
支那ニ於ケル大多數ノ場所、所在地ヲ  
示ス。

戦犯局代表

下、下、カブリーラ、署名